

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
20	川崎市立京町小学校	佐藤 茂樹

学校教育目標	今年度の重点目標
～ともに育ち ともに創る学校～ ○思いやりのある子 ○すすんで学ぶ子 ○自分で考え、行動する子	○一人ひとりに寄り添った児童理解の推進 ○認め合う心の育成 ○子どもの主体性を育む教育活動の推進 ○学習内容の定着と求められる資質能力の育成 ○健康や安全に対する意識の向上 ○事件事故への適切かつ迅速な対応 ○学校・家庭・地域との連携の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	I 豊かな心でふれあう学校 ・子どもや保護者との対話を大切にし、子どもにとってよりよい環境づくりや指導・支援の仕方に努めた。 ・朝、教職員が校門や昇降口等であいさつをしながら子どもたちを迎えた。 ・子どもたちに学校のルール等について、朝会等で定期的に伝え、場をとらえて繰り返し指導・支援した。 ・行事・集会やたてわり班活動だけでなく、日々の学習の中でも異学年といっしょに活動する機会を設けた。 ・学習の中や帰りの会などで、自分自身や友だちのよさに気づくように、ふり返り活動を行った。	Iの柱では、「児童理解」と「認め合う心の育成」を重点としている。まずは、すべての項目の中で、子どもたちにとって「学校が楽しい」ということは、最も大切であると考えている。今年度も9割以上の子どもたちが「楽しい」と肯定的な評価をし、保護者からも学校の取組を高く評価された。これからもすべての子どもたちが「楽しい」と実感できるように、教育活動のさらなる充実を図っていく。 「ルールを守る」は、今年度の重点の一つとして取組んできた。教職員は子どもたちの変容を感じていますが、子どもたちの肯定的な評価が9割を超え、数値としても確認することができた。このことが定着するよう指導・支援を継続する。一方、「あいさつ」については、肯定的な評価が4ポイント程度下がった。「あいさつ」は、人との関わりにおいて大切な要素と考えている。保護者や地域の方と連携し、どのような取組ができるのか検討していきたいと思う。また、自己肯定感の高まりや認め合い・高め合いにつながる「自分や友だちのよさの気づき」についても、さらに高まるような手立てを探っていく。「たてわり班活動をはじめとした異学年交流や地域の方とのふれあい」は本校の特色の一つであり、子ども・保護者ともに高い評価となりました。この活動が無理なく継続できるよう実施時期の調整等を行う。	○カリキュラムマネジメントを通して教育課程の見直しを行うことで、子どもたちがより学ぶことが楽しいと感じるようにしていく。 ○学校の約束をまもるについては、職員の意識や抽象的な概念を具体性をもって言語化できるようにして学校全体としてさらに取り組んでいく。 ○あいさつに関しては、職員が手本を示すことは勿論だが、児童会活動や地域との交流を通して、自然とあいさつが増える環境を設定する。 ○共生＊共育を中心に、自分の良さや他人の良さに気付けるような指導をする。 ○縦割り班活動の計画を見直し、時間と効果が最大限発揮できるようにする。
2	II 学びを楽しむ学校 ・校内研究で、「自分の考えをもち、友だちの考えと比べながら、学びを深めよう」をテーマに授業を行った。 ・体験活動や校外学習、外部講師を招いての授業を取り入れるなど、子どもたちの学習意欲が高まり、学びが深まるような授業づくりに努めた。 ・GIGA端末や大型テレビ等を活用したり、取り出し・入り込み指導等を行ったりするなどして、わかる授業に努めた。 ・係活動・クラブ活動・委員会活動等では、子どもたちのアイデア等を大切にしながら活動をサポートした。	IIの柱では、「子どもの主体性や求められる資質能力の育成」と「学習内容の定着」を重点としている。子どもたちにとって、授業が「楽しい」「わかる」は、たいへん重要であり、意見や感想を交流する中で学びが深まり、さらに「楽しい」「わかる」につながると考えている。学校評価アンケートの結果から実験や観察等の体験、本物にふれる機会は、関心・意欲を高めるために有効であることが確認できた。また、関連する「わかる」については、子ども・保護者とも肯定的な評価が着実に増えています。引き続き、授業を充実していく。一方、「話し合い」に関する項目は、肯定的な評価は高いものの、内訳をみると検討が必要であるとらえている。校内研究でも「話し合いを通して学びを深める」ことをテーマとした取組みを始めていて、経過を注視していく。学級活動(児童活動)については、子どもたちは主体的に取り組んでいることがわかる。これからは学校生活が豊かになるよう指導・支援しておく。	○授業に関しては、校内研究を軸として指導法の改善に努める。校内研究のテーマに関しては今年度中に見直し、京町小学校の子どもたちに合った授業を創造していく。 ○話し合い活動については、GIGA端末との関連を含め児童が主体的な学びとなるようにする。 GIGA端末の活用については、他校の状況や活用情報を集め、本校に適した使い方を作っていく。 ○児童会活動や学級活動については、児童の自治力や創造性を高められるように指導する。

<p>III 健康で安心な学校</p> <p>3</p>	<p>・毎日健康観察を行い、必要に応じて保護者と情報交換を行っている。また、保健だよりや給食だより等を通して、定期的に情報提供を行っている。</p> <p>・授業の進め方の工夫や外部講師を招いた学習等を通して、体を動かす楽しさが味わえるように努めている。また、校庭で遊べる時間を増やしている。</p> <p>・子どもの不安や悩み等をしっかり聞くように努めている。必要に応じて校内体制等を整え、チームで対応している。</p> <p>・さまざまな想定避難訓練を行っている。また、校内の安全点検に力を入れ、不具合があれば迅速に対応している。</p>	<p>IIIの柱は、「健康や安全・安心に対する意識の向上」と「事件・事故への対応」を重点としている。全体的に子どもたちの評価が低くなっています。特に、「規則正しい生活」については、昨年度と状況が変わっていないことがわかった。引き続き、保護者との連携をすすめるとともに、学校で取組めることを検討してまいります。「運動・外遊び」についても、保護者からは「朝遊び」のルール変更や校庭開放の時間確保等、学校の取組を評価されたが、子どもたちは昨年度と同程度の結果だった。遊び方は多様化していますが、子どもたちが企画・運営する委員会活動等も含めて「体を動かしたくなる場」を考えていく。「安全」については、子ども・保護者ともに高い評価になったが、「相談」については、子どもたちの肯定的な評価は7割程度であった。校内に相談できる大人がいることは、安心して学校生活を送るためには大切を考える。子どもたちの状況を把握する手立ては定期的に行うが、子どもたちの設問の受取り方の把握を含め、教職員で共通理解し、対応を考えていく。</p>	<p>○規則正しい生活については、学校からの情報提供を基に保護者との連携を通して児童の意識を高めていく。</p> <p>○運動や外遊びについては、児童が遊びたいと思えるような環境設定やスポーツ委員会等の活動を活性化させる。</p> <p>○相談に関しては、アンケートや効果測定を通して児童の状況の把握に努め、必要に応じて学級担任、支援コーディネーター、養護教諭との相談につなげていく。</p>
<p>IV ともに歩み、つながり合う学校</p> <p>4</p>	<p>・定期的なホームページの更新やお便りの配付を通して情報提供を行っている。緊急な場合には、ミマモルメも活用して情報を伝えた。</p> <p>・さまざまな立場の代表の方が委員となっている「学校教育推進会議」からご意見を取り入れたり、保護者や地域の方に授業に入っていただいたりして、教育活動をすすめた。</p>	<p>IVの柱は、「学校・家庭・地域との連携」に関する内容となっている。本校は、行事や日々の学習において、保護者や地域の方のサポートがある。今年度も9割を超える子どもたちが、「身近な人から温かく見守られている」と感じていて、保護者も肯定的な評価がさらに増えている。これからも、さまざまな方との「ふれあい」「かかわり」の場を教育活動に取り入れ、地域の学校として歩んでく。学校からの「情報発信」については、保護者から昨年度と同様、高い評価であった。引き続き、「学校だより」や「ミマモルメ」等を活用して、定期的に、必要に応じてタイムリーに情報を届けられるようにしていく。</p>	<p>○来年度、本校はコミュニティスクールとして学校運営協議会を発足する予定である。今までの地域との連携が更に効果的になるよう協議を進めていく。</p> <p>○ペーパーレス化できるものについてはミマモルメを活用する。ホームページの情報が更新できるように学校の体制を整備する。</p>

<p>学校関係者の評価</p>	<p>学校運営のまとめ</p>
<p>・地域としては、「あいさつ」の項目が気になった。もう少しあいさつができる子どもたちが増えとうれしい。あいさつが活発な地域は犯罪が少ない傾向があるという話もある。防犯の観点からも地域でのあいさつを増やしたい。</p> <p>・一般的に、学年が上がると他者を意識し、自己表現しない傾向がみられるようである。成功体験を積み重ねるなどして自己肯定感を高め、さらにいきいきと学校生活を送れるよう努めてほしい。</p> <p>・年々、質問の内容が精査されている。「学校が知りたいこと」を丁寧に見取ろうとする姿勢が伝わってきた。また、「規則正しい生活」の項目など、子どもと保護者の認識の相違なども見えてきて、アンケートに意義を感じる。</p> <p>・これからも、よいところだけでなく、みんなで改善しなければならぬことについても伝えてほしい。</p>	<p>すべての子どもたちが、「楽しい」と実感できるような教育活動を展開するためには、さまざまな項目の内容が充実することが必要不可欠である。今回の学校評価アンケート結果から、「あいさつ」や「相談」など、学校として改善しなくてはならないことが明らかになってきた。また、自由記述欄では、学校の取組を肯定的に評価していただくとともに、「熱中症対応」や「授業公開」をはじめ、「交換授業」「ペーパーレス化」「個々の事例」等についても、要望やアイデアをいただいた。今後検討していきたい。また、「登下校や放課後の交通安全」など、保護者や地域の方といっしょに取り組むとより効果的であると思われる内容については、さまざまな場で話し合っていく。学校の教育活動の成果は、子どもの姿、子どもの声にあらわれると考えている。子どもたちの学校生活がより充実するように、今回いただいた児童・保護者や地域の声を受け止め、教育活動の見直し・改善に取り組んでいく。</p>